

候而茂作り不申候者、對馬・因幡・玄蕃・民部に可相斷。但、屋敷主自分に難成所、堀端・土居などは、四人に斷、割場より役人請取、修理可申付事。

一、惣構之竹・笋切あらし不申候様に、切々人を廻し、念を入可申付候。竹卷之事は、如跡々町夫可申付事。

朱書。寛文元年より町會所支配に罷成申候。

一、惣構之竹、御作事奉行切手次第、爲伐可申事。

朱書。寛文元年より町會所支配に罷成申候。

一、與力侍并足輕・御弓之者被下屋敷、寄親組頭へ打渡、頭より其組中へ致割符可相渡事。

被下屋敷歩數之定

一、萬石より三千石迄に、はした知行有之は、五百石者上は可付、四百九拾石迄下に可付事。

一、千六百歩 一萬石より九千石迄

一、千四百歩 八千石より七千石迄

一、千二百歩 六千石より五千石迄

一、九百歩 四千石より三千石迄

二千九百石より百石迄に、はした知行有之者、五拾石は上

に可付、四拾九石迄は下に可付。

一、八百歩 二千九百石より二千六百石迄

一、七百五拾歩 二千五百石より二千石迄

一、六百歩 千九百石より千五百石迄

一、五百五拾歩 千四百石より千百石迄

一、五百歩 千石より八百石迄

一、四百歩 七百石より五百石迄

一、三百歩 四百石より三百石迄

一、二百歩 二百石

一、百七拾歩 百石

一、百二拾歩 九拾石より六拾石、御切米百俵迄

一、七拾歩 五拾石より御切米五拾俵迄。御歩行之者・母衣者・御算用者五拾俵より内に而も此歩數

一、五拾歩 御鐵炮之者、其外掃除坊主・御餌指御小人

一、三拾歩 御小人

一、七拾五歩 人持下屋敷百石當り

一、百七拾歩 町醫者並

萬治三年正月廿五日

一、千百五拾歩 與力千石之當り

一、右之外御切米・御合力銀被下者歩數、知行に圖り人々之様子に隨ひ、對馬・因幡・玄蕃・民部指圖次第可相渡事。

右被仰出之通、相違有間敷者也。

萬治二年十一月廿五日 御印

今 枝 民 部

奥 村 因 幡

津 田 玄 蕃

前 田 對 馬

御普請御奉行

二 御知行兄弟に分配候節

屋敷御定

覺

一、親跡目被仰付、知行兄弟にわ^(分)かり候面々之儀、親屋敷之歩高を以、兄弟應知行高、御定之歩數割符候而可被打渡候。自然餘地於有之者、請込地子に可被申付事。

一、一ト屋敷に而兄弟居住難成屋敷に候はゞ、被途吟味、兄當り分被打渡、餘地請込地子に可被申付候。弟々者、分際

之屋敷別所に而被下候條、可被打渡事。

一、御加増被下候面々、下屋敷并不足分可被相渡候。并親知行兄弟へ分候仁之内、死去人跡目無之手前之儀、下屋敷取上可被申事。

萬治三年正月廿五日

津 田 玄 蕃

奥 村 因 幡

前 田 對 馬

今 枝 民 部

御普請御奉行衆中

三 與力知共三千石迄之者

下屋敷御定

一、下屋敷之儀、與力知共三千石迄之知行高に候はゞ、自分屋敷は三千石之當歩高被下、下屋敷は被下間敷事。

(寛治三年) 卯月廿二日

四 拜領屋敷作事不仕者之儀御定

一、拜領屋敷作事不仕明置候者、三ヶ年目之正月可取上。